|  |
| --- |
| **学校経営推進費　評価報告書（１年め）** |
| **１．事業計画の概要** |
| **学校名** | 履正社高等学校 |
| **取り組む課題** | キャリア教育の充実（生徒の希望する進路の実現） |
| **評価指標** | ・国公立大学進学者数の増加・外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上・全国的な学力コンクールでの顕彰・学校評価アンケートにおける生徒の思考力、判断力、表現力の向上 |
| **計画名** | 「フューチャークラスルーム：FCR」（プレゼンテーションルーム）で「21世紀型教育」を推進～「学びを楽しめる生徒」の育成 |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** |
| **学校経営計画の****中期的目標** | 令和４年度事業計画　２．教学等計画　２-１中学校・高等学校②学校運営の課題新学習指導要領の実施と大学入試改革が進行する現在、「受け身の教育」から、生徒が「主体的に学ぶ教育」への転換を促すものであり、ICTの活用やアクティブ・ラーニングの展開を通じて、物事を「探究」する能力を育成することをめざしている。本校においても、教育課程や行事計画等、教育活動や教育内容を、常に見直し、新しい時代に相応する学校運営体制の確立を図り、21世紀型教育を推進する。 |
| **事業目標** | ア．「学びを楽しめる生徒」の育成１、２年生の「総合的な探究の時間」では、現実社会を題材に、「正解のない問い」を通して、仲間と対話し、意見をまとめて発表することで、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力を育む教育プログラム「QUEST　EDUCATION」を実施する。また放課後に、英語によるコミュニケーション技能を身につけるために、ネイティブ教員がオールイングリッシュで行う「グローバルゼミ」を実施する。その際、可動式教育用チェア「ノードチェア」と、前方と後方に大型ホワイトボードを配置した「フューチャークラスルーム：FCR」を活用し、現在の普通教室より、効率よくグループ討議、プレゼンテーションを行うことで、「受け身」ではなく「主体的」に学びに向かう力やコミュニケーション力を身につけた「学びを楽しめる生徒」の育成をめざす。 |
| **整備した****設備・物品** | 選択教室を「フューチャークラスルーム：FCR」（プレゼンテーションルーム）に改築・可動式教育チェア「ノードチェア」（18台）、大型ホワイトボード（１式） |
| **取組みの****主担・実施者** | ・主担：教務部入試広報室（広報・探究推進リーダー）・取組みの実施者：１、２年生「総合的な探究の時間」担当者、「グローバルゼミ」担当者 |
| **本年度の****取組内容** | ・「総合探究」、「グローバルゼミ」担当者による授業・講習の実施（通年）・「総合探究」担当者による指導内容の打ち合わせ（毎週土曜日）・「履正CUP（総合探究発表会）」の実施（11月）・「QUEST CUP」全国大会予選へのエントリー（12月）・「学校評価アンケート」の実施・集計・分析（１～２月）・全国大会出場決定・出場（２月）・「フューチャークラスルーム：FCR」完成（３月）・次年度「総合探究」担当者による研修（３月）・次年度に向けた指導内容の検討・決定（３月） |
| **成果の検証方法****と評価指標** | ①総合型選抜による国公立大学合格者数が３名以上。②「スタディーサポート」のGTZ　B1レベル以上が生徒全体の20％以上。③・探究活動の発表会である「QUEST CUP」全国大会予選に参加。・「学校評価アンケート（生徒対象）」における「授業や課外活動を通して、思考力、判断力、表現力等が向上していると感じる」の肯定的評価70%以上 |
| **自己評価** | ①総合型選抜による国公立大学合格者数が３名以上。→大阪教育大、奈良県立大に各１名合格、計２名 （△）②「スタディーサポート」のGTZ　B１レベル以上が生徒全体の20％以上。→21.3％ （○）③・探究活動の発表会である「QUEST CUP」全国大会予選に参加。→１・２年各クラス代表19チームが全国大会予選に参加し、本選に１年１チーム、２年２チームが出場 （◎）・「学校評価アンケート（生徒対象）」における「授業や課外活動を通して、思考力、判断力、表現力等が向上していると感じる」の肯定的評価70%以上。→肯定的評価は72％ （○） |
| **次年度に向けて** | 「フューチャークラスルーム：FCR」の完成は、当初計画では2022年10月を予定していたが、2023年度新入生の大幅増が予想され、HR教室や特別教室を含めた教室全体の整備計画がまとまるまで、整備を留保した。2023年１月30日に出願が終了し、必要なHR教室数の目途が立ち、「フューチャークラスルーム」を含めた、教室全体の整備計画がまとまったので、直ちに整備を行い、３月上旬に完成した。その結果「総合探究」等での活用は、できなかったが、「総合探究」の取組みは、順調に進み、11月にクラス代表による「履正CUP（総合探究発表会）」を実施し、12月に「QUEST CUP」全国大会予選へのエントリーを行い、１年１チーム、２年２チームが全国大会出場を果たした。そのうち２年生１チームは、インターン先企業からの依頼を受けて、３月に東京で、企業役員の前で発表「ASHITA MEET」を行った。次年度は、「フューチャークラスルーム」を、４月当初から積極的に活用し、次年度の成果指標・総合型選抜による国公立大学合格者数が５名以上。・「スタディーサポート」のGTZ　B1レベル以上が生徒全体の25％以上。・探究活動の発表会である「QUEST CUP」全国大会に出場し、佳作以上を受賞。・「学校評価アンケート（生徒対象）」における「授業や課外活動を通して、思考力、判断力、表現力等が向上していると感じる」の肯定的評価75%以上。の達成に向けて、取組みを進めて行く。 |

**３．事業費報告**

